



プロフェッショナルから学ぶ～キッズアスリート陸上教室から～

11月27日。キッズアスリート陸上教室がありました。三重県陸上競技協会普及委員会の坂野さん、中川さん、松葉さんに来ていただき、「走る」「投げる」「跳ぶ」の楽しさやコツを教えてくださいました。ちなみに、この3人の方は、大きな陸上大会で素晴らしい成績をおさめているすごい方たちです。

まずは、デモンストレーション。～先生への挑戦～ということで、この3人の方たちに、子どもたちが挑みます。第1回戦は、短距離のプロフェッショナル、坂野さんと、子ども3人との勝負です。といっても、普通にやってはおもしろくありません。子どもたちは、坂野さんのスタート地点から何メートルも前からスタートするハンディマッチです。私は、「これは、ハンディをあげすぎ！坂野さん、勝てるかなあ・・・。」と心配していたのですが、こちらの心配はなんのその。ピストルの合図とともに、ぐんぐん距離を詰め、あっという間に、子どもたちに、追いつき、追い抜いていきました。まるで地面の上を跳んでいるかのようなその走りに、見ていた子どもたちからは、「すごい！」の声。中川さん、松葉さんにも、投てきや幅跳びの圧巻のデモンストレーションを見せていただきました。

その後は、4～6年生の子どもたちに、レッスンをしてもらいました。見ていると、プロフェッショナルならではの言葉かけがあります。例えば、短距離の練習で、ももあげをする時、ふつうは、「ふとももをしっかり上げて！」と言います。しかし、坂野さんは、「数字の7になるように足を上げて！」と言いました。これで、子どもたちに理想のもも上げのイメージが伝わるのです。また、幅跳びをしてくれた松葉さんは、「向こうに障子があって、それに跳び込んでいくように！」と伝えます。それで、子どもたちは助走のスピードを落とさずに跳ぶことができるのです。言葉かけ一つで子どもたちの動きがどんどん変わっていくのがわかりました。

あっという間の2時間。終わって休憩時間になっても練習をしている子どもたちの姿がありました。子どもたちも、私達教員も勉強させていただいた一時でした。



先生への挑戦で、会場は大盛り上がり！



中川さんには、ジャベリックボールのこつを教えてくださいました。

自然と親しむ～4年生「くすのき学習」2回目～

12月3日。6月の「くすのき学習」から半年が経ち、「くすのき学習」2回目です。この日も自然公園指導員の宮本さん、藤川さんに来ていただきました。

6月に観察した時のくすのきさんは、葉っぱがいきいきと茂り、「夏」を感じさせましたが、この日のくすのきさんは、冬の寒さをこらえているように見えました。下には、秋に実った実がたくさん落ちています。

この日は、「そんなくすのきさんとふれあい、よく知ろう！」が目当てです。

まず、くすのきさんの下に行き、実を拾い、じっくり観察します。スイカの実の中には種があります。では、くすのきの実の中には、どうでしょうか？…実を割っていくと…ちゃんとありました！触ってみると、硬い。やっぱりこれがくすのきの種です。「これって、植えたらくすのきになるんですか？」と聞いてみると、芽が出る環境さえそろえば、ちゃんと育つのだそうです。「実のにおいってこんななんや。」「種の色ってこんななんや。」と子どもたちにとって身近なくすのきさんの中にも新しい発見がたくさんありました。

この後は、採った実の液をつかって絵を描いたり、枝を輪切りにしたものでペンダントを作ったりして楽しんだ子どもたち。くすのきさんのことをもっと知り、親しむ機会となりました。



優しく教えてくれる宮本さん（左）と
藤川さん（右）



くすのきの実の液で絵を描いたり、
枝でペンダントを作ったり。
4年生の子どもたちはとても熱心に
取り組みました。

～子どもたちの振り返りから～

＊くすのきの葉、実、えだのにおいがちがうことを知れました。実の中にたねがあるということが知れて良かったです。まさか実で絵もかけるなんて思ってもいませんでした。家でかいてみたいと思いました。

＊絵をかく時、どこの部分でかくかをしっかり考えました。それで、たねをころころさせるとうまくかけるとわかりました。くすのきのたねのにおいが、ぶどうのにおいがするのがふしぎでした。

＊くすのきさんの実で、お絵かきできるのが知れました。しかも、たねによって、赤っぽい色やむらさき色、黄色、緑などの色が出てきました。さいごのペンダントはひじょうに気に入りました。今回も、ありがとうございました。